

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： はじめに神は天地を創造された。 (創世記 1章1節)

保育目標：	0歳児	・沐浴をして暑い日々を気持ちよく過ごす。
	1歳児	・保育者と一緒に水、土、砂などに触れて遊ぶ。
	2歳児	・友達に興味を持ち、真似をして遊ぶ。
	3歳児	・全身を使って遊びを楽しむ。
	4歳児	・友達と一緒に夏の遊びを楽しむ。 ・新しい事もやってみようとする。
	5歳児	・友達と一緒に夏の遊びを楽しみ、交わりを深める。 ・神の創造された広い自然界に目を向ける。

梅雨に入り、ジメジメした日もありますが、私たちが生活する上では必要な雨。その恵みの雨を降らせて下さる神様に感謝しつつ、子ども達も保育室やテラスから降っている雨をじっと見つめ「雨音」「雨粒」「水たまり」「空気」等を五感を通して感じながら過ごしています。どんなことを感じているのでしょうか。

5月4～5日で日本保育学会に参加させて頂きました。自主シンポジウムでは、「乳児の関わりにおけるプリコラージュ 10の姿に向けての出発点」のお話を聞きました。お話しの中で以前は0歳児の脳の中にあるニューロン(脳細胞)はシナプスと結び回路をどんどん作って増えていくと思われていましたが最近の研究では、「過形成と刈込み」。つまり1歳前後でニューロンの増加がピークになりあとは少しずつ消えていくそうです。上手く刈り込んでいくことが大切になってくる、つまり赤ちゃん自身が不要なもの必要な物を選択し不要な物を消していつているそうです。大人が良かれと思いつていることを「それはいらない」と判断し消していきそうです。子どもはもともと持っている姿(能力)があるので、0歳から、自分で選び選択できる環境の中での学びや育ちが重要であり、私たちは、その能力が消されることなく育てていくことが大切であることを学びました。乳児クラスでも子ども自身が考え選び遊べるよう保育をしていつています。0歳児も4月当初は保育者の傍にいないと不安だったのが、少しずつ膝の上から離れ、興味・関心ある場所を見つけると外であろうと室内であろうとハイハイで行き、触ったり、握ったり、見つめたり、時には口の中に入れて感触を味わったりと好奇心旺盛です。探索している0歳児の姿は「夢中」そのもので「これは一体何だろう？」という表情をしながら模索しています。きっと頭の中はフル回転でしょう。また、他児(同年齢や異年齢)にも興味を示しじっと見つめる姿や、近寄っては手を伸ばし触れ相手を意識する姿も見られ始めています。0歳児は大人との関係の中で「やってもらった経験」から次第に年齢を重ね「やってあげる側」へと移っていきます。そして子ども同士同じ空間の中にいることが楽しくなっていく、子ども同士の関わりの中で様々な経験を学んでいきます。以前、「自分で」の時期を過ごしている1歳児が、衣服の着脱で葛藤している場面がありました。必死になって、腕を袖口から抜こうとしているのですが上手いかず、出来ないもどかしさを泣きながらアピール。床に転がりながらも、でも「自分でやりたい」気持ち。心の中で「頑張ってる」と応援していました。そしてその姿を静かに見守りながら、必要ならいつでも手助け出来るよという思いで側にいると、しばらくして自ら保育者のところまで行き、やってもらいたいことを伝えていました。それから、何回も自分で試行錯誤しながら脱ぎ方を習得し今ではさっさと衣服を着替えています。大人が先回りして、やってあげることは簡単ですがその子自身の育ちにはならなかったことでしょう。乳児期から、「こども自身が考え選択できる環境」の中で、「子ども同士の関係や関わりを大切」にしながらか「大人が先回りしない」ことを心に留め、こども1人ひとりの学びや育ちを大切にしていきたいと思つています。

今週末には、おひる祭があります。職員一同、保護者の方々をはじめ、こども園と関わりを持って下さっている方々と共に作り上げていきたいと思つています。是非、多くのご参加・ご協力をお願いすると共に楽しい、そして祝された時となりますよう願っています。

主任 松下 成美

